

コップ1杯のお水に ありがたい気持ちを込めて

いつでも蛇口をひねればいただくことのできる、お水。暑い夏にはのどを潤し、命をつないでくれる大事なお水は、いったいどこから来ているのでしょうか？

「うみやあ！」と評判の名古屋の水は、遠く長野から岐阜県、愛知県、三重県を経て伊勢湾へと流れる木曽川からいただいています。安全でおいしい名古屋の水は、木曽川流域の皆さんの知恵と努力の賜物。木曽川が豊かで清らかであるためには、流域の市町村やそこで暮らしを営む人々、森林や山々が元気でなければなりません。

世界では清潔な飲み水を得ることができずに、たくさんの尊い命が失われています。私の訪れたエチオピアやルワンダでは何時間も歩いて汲みに行く川の水は濁っていて、病気の原因になることも多いのです。私たちは当た

り前のようにきれいなお水をいただいています。それは豊かな木曽川のおかげ。都市部の私たちは山間部の豊かな自然の恵みなくしては生きられません。そのことに今一度感謝して、お世話になっている木曽川流域へ思いを馳せ、山間部と都市部との交流を大切に、過疎化や農林業の担い手不足、水源林の荒廃などの課題をともに解決していけたらと思います。

そこで都市部から山間部の皆さんへ何かできないかと始まったのが「コップなごや水基金」です。レストラン、カフェなどで無料提供されているコップの水に対し、お客さまに募金していただくというもの。現在、市内の約30店の飲食店が協力店となってくださり、テーブルの上に「コップなご



「水基金」の目印、青いメッセージカード

や水基金」の青いメッセージカードが置かれています。まだ今年で2年目ですが、多くの方々が趣旨に賛同していただき、温かい募金が集まりました。

現在はその募金を使って、中津川市加子母の木地職人さんに間伐材でいろいろな物を作っていただいています。素晴らしい技術を持って伝統工芸を継承されている職人さんに、名古屋からデザインを提案し、都市部のみんなが「欲しい！」と思う木工品を制作することで木製品への注目を集め、販売を伸ばすことが目標。つまり「国内フェアトレード」です。寄付ではなく、お仕事

を作り、山間部の工芸品の素晴らしさに光を当て、身近に使える品々をデザインし、出会いを作ります。

「世界中すべての人がおいしいお水を飲むことができ、笑顔が増えますように」と願いを込め、そして「いつもおいしいお水をありがとう」の



木曽川流域・加子母の木地職人さんの工房

感謝の気持ちで、水でつながる都市部と山間部の人・モノ・コトの交流を「コップなごや水基金」で応援したい。そんな思いで活動しています。

※「コップなごや水基金」さらに詳しくはホームページにて。<http://cupnagoya.org>

プロフィール……………
はらださとみ
(タレント/エシカル・コーディネーター/フェアトレードタウンなごや推進委員会 世話人)
フェアトレード&エシカル商品の輸入販売「エシカル・ベネロープ」代表。国際協力機構 JICA 中部なごや地球ひろばオフィシャル・サポーター、親子向けの絵本読み聞かせ「ルブ」主宰など幅広く活躍中！ エシカル・ファッション&フェアトレードのセレクトショップ「エシカル・ベネロープ」をテレビ塔1階にオープン。
<http://satomiharada.com>

